



2020年度通期決算説明資料

2021年4月30日

- 1. 2020年度通期決算概要 P.3
- 2. COVID-19影響と対応 P.4
- 3. 競争力強化に向けた取り組み P.5
- 4. 2021年度通期見通し P.6
- 5. 参考資料 (主要航路積高・消席率・運賃指数) P.7
- 6. 参考資料 (船隊構成、航路構成) P.8

# 1. 2020年度通期決算概要

## □ 要点

需要の急回復に伴う短期運賃市況の上昇により、前期比大幅に改善し通期で**3,484百万US\$の黒字を達成 (+3,380百万US\$)**

- 4Qも、COVID-19感染の再拡大によりサプライチェーンの混乱は続き、港湾や内陸の混雑、各港における滞船、世界的なコンテナ不足がより深刻化。
- かかる状況下、3Qから4Qにかけて運賃は想定を大幅に上回る水準で推移。旧正月の積高は例年通り下落するも直ぐに回復。

## □ 2020年度通期実績

(単位：百万US\$)

	2020年度						
	1Q 実績	2Q 実績	上期 実績	3Q 実績	4Q 実績	下期 実績	通期 実績
売上高	2,736	3,181	5,917	3,757	4,724	8,480	14,397
税引き後損益	167	515	682	944	1,858	2,802	3,484

燃料油価格 (US\$/MT)	\$348	\$309	\$328	\$314	\$356	\$335	\$331
-----------------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------

2019年度	対前年	
通期 実績	増減	増減 (%)
11,865	2,532	21.3%
105	3,380	3229.6%

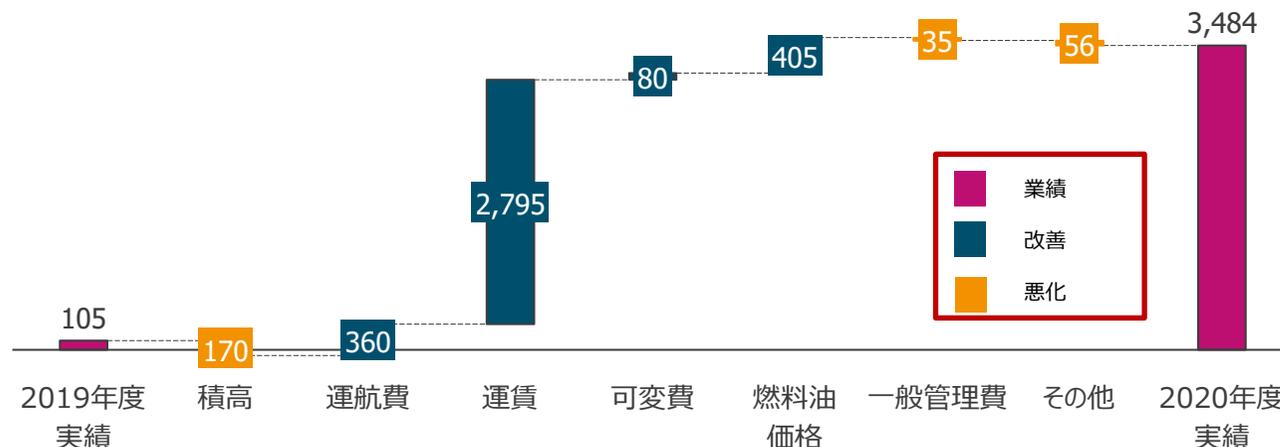
\$441	-\$110
-------	--------

\*2021年1月公表時点

2020年度	対前回予想	
通期 予想	増減	増減 (%)
13,674	723	5.3%
2,526	958	37.9%

\$337	-\$5
-------	------

## □ 2020年度通期実績対前年度比較



### 2020年度通期 その他実績

- EBITDA : 4,855 百万US\$
- EBIT : 3,832 百万US\$
- 総燃料消費量 : 3,595 千 MT
- 総積高 : 11,964 千 TEU

- 積高：2Hにて需要は急回復するも、1Hの大幅な落ち込みもあり対前期比で悪化。
- 運航費：プロダクト改善効果に加え、港湾混雑により各地で滞船が生じ船腹の回転率が低下したため運航費は減少。
- 運賃：短期市況が大きく上昇。
- 可変費：港湾や内陸の混雑により追加費用が発生するも、コスト削減は進展。
- 燃料油価格：油価は下落。
- 一般管理費：代理店費用が増加。
- その他：為替影響や金利等による悪化。

## 2. COVID-19影響と対応

### COVID-19影響と対応

#### 発生事象

- 第4四半期も消費財を中心に世界的な需要は増加。第4四半期前年同期比では、北米航路の市場荷動きは+40%増加、世界全体でも増加に転じており、COVID-19による貨物量減少が深刻であった上期から一転し、第3四半期以降の回復基調もより鮮明に。
- COVID-19感染再拡大による労働力不足等の影響で、港湾での入港待ち、荷役効率低下による停泊時間の長期化、鉄道やトラックの内陸輸送の遅延が続く。
- 在庫積み増しやトラック、シャーシ不足等による実入りコンテナ引き取りの遅延が4Qも引き続き発生。
- 世界各国の移動制限により、船員交代に関しては困難な状況が継続。



#### ONEの 対応

##### Customer service oriented

- eコマースの新機能“ONE QUOTE”を2021年2月より開始。
- 顧客とコンテナ、スペースの状況について密なコミュニケーションを行い、リソースの最大化。

##### Operation excellency

- 船の遅延と貨物量急増に応じて臨時便を投入し積み残しの解消、スケジュールを維持。
- コンテナ調達を継続、デリバリー次第投入中。
- AI技術も活用し、自社スペースの最大運用、及び追加船舶を活用したコンテナ回送を実施、コンテナ持ち帰り最大化。
- ターミナルと協業して効率的な荷役の実行、船の入れ替え等も状況に応じて実施、オペレーションの最小化。
- 船員交代のための臨時寄港にも最大限対応、船主との協力を強化。

##### Quality of employee

- 従業員の安全を第一に、全世界のオフィスで柔軟な在宅勤務の環境を手配、実施。
- 従業員同士の繋がりの維持を目的とした活動を世界各地で実施。地域社会に根差したCSR活動等。



**ONEとして最大限の対応をするも、  
サプライチェーン全体に対して許容量を超える負担がかかっている状況が継続中。**

### 3. 競争力強化へ向けた取り組み

- ▶ THE ALLIANCEの2021年度新プロダクトを発表。アジア発米国ガルフ向けサービスEC6の新設、北米東岸向けEC1、EC3サービスを統合し大型化、大西洋サービスにおいても大型化、合理化を実施。便数の増加やトランジットタイムの改善、より広範な寄港地のカバーを実現。
- ▶ 成長が見込まれるマーケットの取り込み強化を目的とした、アジア発東アフリカ向け新サービスEAFの開始を発表、2021年4月よりサービス開始。
- ▶ eコマースの更なる強化の一環で電子見積機能ONE QUOTEを2021年2月より開始。顧客からの運賃見積もり、Booking依頼をいつでもどこでもタイムリーに対応。
- ▶ 脱炭素化への取り組みとしてバイオ燃料のトライアルを実施。M/V MOL Experienceに供給、大西洋航路にて実験。環境対策促進に向け、実用化の検討を進める。
- ▶ グリーンストラテジー部門を新設、2021年4月より開始。脱炭素化に向けて社内の関係各所が社外のステークホルダーと連携しサステイナブルな社会構築を目指す。
- ▶ シンガポール海事港湾庁(MPA)と海事産業の脱炭素化に向けたファンドの設立に参画。政府と民間のコラボレーションを通じて研究開発、技術開発プロジェクトを加速させる。

## 4. 2021年度通期見通し

### □ 2021年度通期見通しの開示

- 足元の需要は堅調に推移する一方、COVID-19感染による様々な制限によりサプライチェーンに負荷がかかっている状況です。
- ワクチン接種の進展によりCOVID-19感染状況の改善が期待されるも、いくつかの国においてはCOVID-19感染が再拡大する懸念もあり、先行きは不透明です。
- 2021年度もCOVID-19感染動向次第で経済環境がダイナミックに変化する状況下において合理的な業績見通しの策定は現時点では困難であり、未定といたします。

## 5. 参考資料（主要航路別積高・消席率・運賃指数）

（単位：千TEU）

航路別積高・消席率		2019年度	2020年度						
		通期実績	1Q実績	2Q実績	上期実績	3Q実績	4Q実績	下期実績	通期実績
北米往航	積高	2,692	610	765	1,375	730	659	1,389	2,764
	消席率	91%	96%	100%	98%	103%	102%	103%	100%
欧州往航	積高	1,830	347	419	766	402	389	791	1,556
	消席率	93%	96%	98%	97%	102%	99%	100%	99%

北米復航	積高	1,310	327	328	654	368	330	698	1,352
	消席率	44%	51%	43%	47%	54%	56%	55%	51%
欧州復航	積高	1,339	290	289	579	331	308	639	1,219
	消席率	67%	75%	70%	73%	80%	80%	80%	76%

（2018年度1Qの各航路総平均運賃を100とした指数）

航路別運賃指数		2019年度	2020年度						
		通期実績	1Q実績	2Q実績	上期実績	3Q実績	4Q実績	下期実績	通期実績
北米往航		105	110	119	115	140	157	148	132
欧州往航		102	106	103	104	125	280	201	153

- 積高・消席率： 積高は減少するも、港湾混雑等によりスペースも減少し、北米航路、欧州航路共に満船基調で推移。
- 運賃指数： 北米航路、欧州航路共に短期運賃市況の上昇を受け運賃指数は上昇。

## 6. 参考資料（船隊構成・航路構成）

### □ 船隊構成

Size		1)2020年12月末	2)2021年3月末	2)-1)
		>= 20,000 TEU	キャパシティ(TEU) 隻数	120,600 6
10,500 - 20,000 TEU	キャパシティ(TEU) 隻数	411,600 30	431,600 32	20,000 2
9,800 - 10,500 TEU	キャパシティ(TEU) 隻数	100,100 10	100,100 10	0 0
7,800 - 9,800 TEU	キャパシティ(TEU) 隻数	383,326 43	383,326 43	0 0
6,000 - 7,800 TEU	キャパシティ(TEU) 隻数	177,216 27	170,866 26	▲ 6,350 ▲ 1
5,200 - 6,000 TEU	キャパシティ(TEU) 隻数	89,458 16	94,928 17	5,470 1
4,600 - 5,200 TEU	キャパシティ(TEU) 隻数	103,731 21	103,607 21	▲ 124 0
4,300 - 4,600 TEU	キャパシティ(TEU) 隻数	67,271 15	67,271 15	0 0
3,500 - 4,300 TEU	キャパシティ(TEU) 隻数	33,193 8	32,664 8	▲ 529 0
2,400 - 3,500 TEU	キャパシティ(TEU) 隻数	71,143 27	79,282 30	8,139 3
1,300 - 2,400 TEU	キャパシティ(TEU) 隻数	13,951 8	12,171 7	▲ 1,780 ▲ 1
1,000 - 1,300 TEU	キャパシティ(TEU) 隻数	9,584 9	8,536 8	▲ 1,048 ▲ 1
< 1,000 TEU	キャパシティ(TEU) 隻数	0 0	0 0	0 0
<b>合計</b>	<b>キャパシティ(TEU) 隻数</b>	<b>1,581,173 220</b>	<b>1,604,951 223</b>	<b>23,778 3</b>

第4四半期末

### □ 航路構成

(2020年4Q 往復スペースの構成)

